

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は引き続き上昇基調で推移か

〔10月2日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）			9月25日～9月29日		
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	148.35	149.71(27)		148.25(25)	149.11 +0.74
ユーロ・ドル	1.0651	1.0657(25)		1.0488(27)	1.0586 -0.0067
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値		前週末比		
日経平均株価	31,857.62	-544.79	日本10年債利回り	0.766	+0.020
ダウ平均株価	33,666.34	-297.50	米10年債利回り	4.575	+0.141

<来週の主要経済統計等>

- 30日 中国9月製造業PMI、中国9月サービス業PMI
- 1日 中国9月財新製造業PMI、中国9月財新サービス業PMI
- 2日 日銀短観（9月調査）
 - スイス8月小売売上高
 - 独9月製造業PMI確報値、ユーロ圏9月製造業PMI確報値
 - 英9月製造業PMI確報値
 - ユーロ圏8月雇用統計
 - 米9月製造業PMI確報値
 - 米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出
 - パウエルFRB議長 会議参加
 - ※中国市場は10月6日まで休場（国慶節）
- 3日 豪8月住宅建設許可件数
 - 豪中銀（RBA）政策金利
 - スイス9月消費者物価指数
 - 米雇用動態調査（JOLTS）
- 4日 NZ準備銀行（RBNZ）政策金利
 - 独9月サービス業PMI確報値、ユーロ圏9月サービス業PMI確報値
 - 英9月サービス業PMI確報値
 - ユーロ圏8月小売売上高、ユーロ圏8月生産者物価指数
 - 米9月ADP雇用統計
 - 米9月サービス業PMI確報値
 - 米9月ISM非製造業景況指数、米8月製造業受注
 - 「OPECプラス」の合同閣僚監視委員会（JMMC）
- 5日 豪8月貿易収支
 - 独8月貿易収支
 - 米8月貿易収支、米新規失業保険申請件数
 - カナダ8月貿易収支
 - カナダ9月Ivey購買部協会指数
- 6日 日本8月勤労者世帯家計調査
 - 日本8月景気動向指数速報値
 - スイス9月雇用統計
 - 独8月製造業受注指数
 - カナダ9月雇用統計
 - 米9月雇用統計

【前回のレビュー】FOMCでの米連邦準備制度理事会（FRB）のタカ派的なスタンス

ス、米国経済の堅調さ、原油高受けを受けたインフレ再加速への警戒感などから、米長期金利が上昇傾向にある。ドルは堅調な動きを見せている。ドル円は政府・日銀による円買い介入への警戒感も台頭する中、ドルの堅調な地合いを背景にドル円は緩やかに上昇基調で推移するとした。

【ドル円は高値圏で伸び悩む】

9月19日～20日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）の後はドル高基調が継続している。背景には米連邦準備制度理事会（FRB）による金融引き締め長期化観測が米長期金利の上昇につながり、ドル買いの動きに傾いた。

FOMCメンバーによる政策金利見通し（いわゆるドットチャート、ドットプロット）では、2023年末の見通しは5.625%となり、前回（6月）から据え置かれた。年内にあと1回利上げがあるとの見通しに変化はない。市場の注目を集めたのが2024年末の見通しで、5.125%となり、前回の4.625%から0.5%引き上げられた。こうした点が引き締め長期化観測につながった。

原油相場の高止まりもあり、インフレ再燃観測もくすぶりつつある。NY原油は27日に大幅高となり、一時94ドル台まで上昇した。期近ベースで8月28日に80ドル台に乗せてから約1か月で14ドル前後の大幅な上げを見せている。

こうした中、米10年債利回りは9月28日に4.607%前後まで上昇を見せた。8月30日の4.108%と比較すると1か月で0.50%前後の上昇となっている。ドルインデックスは8月30日の安値102.936から9月27日には106.839まで上昇を見せた。ドル円は9月1日の安値144.45から9月27日の高値149.71まで5円以上のドル高円安に振れている。なお、米長期金利の上昇や原油高が一服しており、月末や四半期末を控えて、28日と29日のドル円は調整局面となっている。

10月第1週は2日の米9月ISM製造業景況指数、3日の米雇用動態調査（JOLTS）、4日に米9月ADP雇用統計、米9月ISM非製造業景況指数、6日の米9月雇用統計などの注目度の高い経済指標が相次ぐ。このところの米国経済の堅調さから、これらの米経済指標はおおむね底堅い結果につながるとみられ、ドルの下支え要因となりそうだ。

堅調なドルの動きに加えて、円は日銀による大規模緩和策の維持を受けて、ドル円は堅調な推移が継続するとみられる。150円に接近したことで、日本の金融当局によるドル売り円買い介入が警戒されるものの、ドル円は引き続き緩やかな上昇基調が続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、147.00～152.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、2日に日銀短観（9月調査）、米9月製造業PMI確報値、米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出、3日に米雇用動態調査（JOLTS）、4日に米9月ADP雇用統計、米9月サービス業PMI確報値、米9月ISM非製造業景況指数、米8月製造業受注、5日に米8月貿易収支、米新規失業保険申請件数、6日に日本8月勤労者世帯家計調査、日本8月景気動向指数速報値、米9月雇用統計などがある。

【ユーロドルは下落基調で推移か】

ユーロドルは下落基調が継続して下値を探る展開が続いた。ドルがこれまでの上昇に対する調整局面となって売られたことで、ユーロドルは1.0500ドル割れの局面からは下げ渋りを見せている。28日発表のドイツの9月の消費者物価指数速報値は前年比が+4.5%となり、市場予想の+4.6%や前回の+6.1%を下回った。ただ、その後に発表された米第2四半期GDP確報値や米第2四半期GDPデフレータが市場予想を下回ったことで、ドル売りの動きとなって、ユーロドルは下げ渋りの動きを見せた。

ユーロドルは売られ過ぎ感などから、安値圏から下げ渋りを見せて上昇に転じる場面もありそうだ。ただ、下向きの大きな流れに変化はないとみられ、戻りが一服すると再び下落基調で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0300～

1. 0750ドル。

ポンドドルもユーロドルと同様に下落基調で推移してきた。27日には1.2100
近辺まで下落したものの、その後はやや下げ渋りを見せている。20日の8月の英消費
者物価指数は前年比、コア前年比ともに市場予想を下回った。21日の英金融政策委員
会（MPC）では、8月消費者物価や企業景況感の低下などを背景に政策金利は5.2
5%で据え置きとなった。

英政策金利の据え置きや英国の景気鈍化への警戒感、ドルの堅調な動きなどからポ
ンドドルは軟調に推移してきた。ポンドドルはテクニカル面での売られ過ぎ感などから一
時的に戻す可能性はあるものの、下値を探る展開が継続することとなりそうだ。ポンド
ドルの目先の予想レンジは、1.1900～1.2300ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日に中国9月製造業PMI、中国9月
サービス業PMI、1日に中国9月財新製造業PMI、中国9月財新サービス業PM
I、2日にスイス8月小売売上高、独9月製造業PMI確報値、ユーロ圏9月製造業P
MI確報値、英9月製造業PMI確報値、ユーロ圏8月雇用統計、3日に豪8月住宅建
設許可件数、豪中銀（RBA）政策金利、4日にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、
独9月サービス業PMI確報値、ユーロ圏9月サービス業PMI確報値、英9月サービ
ス業PMI確報値、ユーロ圏8月小売売上高、ユーロ圏8月生産者物価指数、5日に豪
8月貿易収支、独8月貿易収支、6日に独8月製造業受注指数、カナダ9月雇用統計な
どがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報
の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者が
これらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく
転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レ
ポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆
送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。